

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	1 都市機能の集約と充実による、安心・安全で住みやすいまちづくり		
計画の期間	平成26年度 ～ 平成30年度 (5年間)	交付対象	瀬戸市
計画の目標			

- まちなか地区の多様な都市機能の集約と充実により、安心・安全で住みやすい都市を形成する。
- 中心市街地における都市機能の集約と充実
 - 移動しやすく住みやすい街づくり
 - 安心・安全な環境整備

計画の成果目標（定量的指標）

- ・計画区域内の人口数28,262人（H24）から28,560人（H30）に増加
- ・市民アンケートにおける「車で市内をスムーズに移動できる」「公共交通機関利用で移動に不自由がない」という評価をしている市民の割合44.9%（H24）から50%（H30）に増加
- ・地域交流センター及び公民館で実施される生涯学習講座の市民参加人数476人（H24）から526人（H30）に増加
- ・市民アンケートでの「大変住みやすい」「どちらかというと住みやすい」と評価している市民の割合75.4%（H23）から80%（H30）に増加
- ・名鉄水野駅周辺で違法に駐輪されている自転車の数を0台（H30）に減少

定量的指標の定義及び算定式

	定量的指標の現況値及び目標値								備考	
	当初現況値 (H26当初)	中間目標値 (H28末)	最終目標値 (H30末)							
① 計画区域内の人口数を調査する。	28,262人	28,400人	28,560人							
② 市民アンケートにおける、「車で市内をスムーズに移動できる」「公共交通機関利用で移動に不自由がない」という評価している市民の割合を調査する。	44.9%	47.5%	50.0%							
③ 地域交流センター及び公民館で実施される生涯学習講座の市民参加人数を調査する	476人	500人	526人							
④ 市民アンケートにおける「大変住みやすい」「どちらかというと住みやすい」と評価している市民の割合を調査する	75.4%	77.5%	80.0%							
⑤ 名鉄水野駅周辺で違法に駐輪されている自転車の数を調査する	40台/日	-	0台/日							
全体事業費	合計 (A+B+C)	2,802.0百万円	A	2,716.4百万円	B	0百万円	C	85.7百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	3.1%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期		事後評価（中間評価）の実施時期	
事後評価の実施体制		令和元年度	
学識経験者等の第三者で構成される瀬戸市社会資本整備総合交付金評価委員会にて、評価指標の設定や最終目標値、指標評価方法について意見をいただき、その後、事後評価原案について庁内検討会議において評価を実施した後、再度、評価委員会による評価を実施する。		公表の方法	
		社会資本整備総合計画 事後評価をホームページ等に掲載する。	

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																
A 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）		備考
									H24	H25	H26	H27	H28	(計画)	実績	
1-A-1	都市再生	一般	瀬戸市	直接	瀬戸市	瀬戸まちなか地区都市再生整備計画事業 (地方都市リノベーション事業)	地区面積314ha 公立病院、保育施設、駅前広場等	瀬戸市						(2,700)	2,716.4	
合計														(2,700)	2,716.4	
B 関連社会資本整備事業（該当なし）																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）		備考
									H24	H25	H26	H27	H28	(計画)	実績	
合計														0	0	
C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費（百万円）		備考
									H26	H27	H28	H29	H30	(計画)	実績	
1-C-1	施設整備	一般	瀬戸市	直接	瀬戸市	児童遊園等環境整備事業	児童遊園の遊具更新	瀬戸市						(8)	32.6	
1-C-2	施設整備	一般	瀬戸市	直接	瀬戸市	福祉保健センター（やすらぎ会館） 施設整備事業	施設設備の更新と安全対策	瀬戸市						(85)	45.9	
1-C-3	施設整備	一般	瀬戸市	直接	瀬戸市	図書館施設安全安心対策事業	施設設備の更新及び安全対策	瀬戸市						(28)	0	別財源で実施
1-C-4	施設整備	一般	瀬戸市	直接	瀬戸市	瀬戸サイト跡地活用事業	既存施設の利活用、地場産業の情報発信施設整備	瀬戸市						(22)	0	別財源で実施
1-C-5	施設整備	一般	瀬戸市	直接	瀬戸市	文化センター施設整備事業	施設設備の更新と安全対策	瀬戸市						(220)	0	別財源で実施
1-C-6	調査計画	一般	瀬戸市	直接	瀬戸市	バリアフリー基本構想作成事業	基本構想作成	瀬戸市						(5)	0	他事業に合わせ実施予定
1-C-7	調査計画	一般	瀬戸市	直接	瀬戸市	都市の機能集約方針に関する検討調査	立地適正化計画策定	瀬戸市						(8)	7.2	
合計														(376)	85.7	
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考				
1-C-1	A-1と一体的に実施することで、子ども達が安全・安心に遊ぶことが出来る居住環境の確保とまちなか居住の促進を図る。															
1-C-2	A-1と一体的に実施することで、中心拠点区域内の福祉サービス機能の集約と機能向上により、まちなか居住の促進を図る。															
1-C-3	A-1と一体的に実施することで、中心拠点区域内の行政サービス機能の集約と機能向上により、まちなか居住の促進を図る。															
1-C-4	A-1と一体的に実施することで、既存ストック施設の有効活用と合わせ、尾張瀬戸駅周辺地域の観光交流による賑わいの創出に寄与する。															
1-C-5	A-1と一体的に実施することで、既存ストック施設の機能向上と合わせ、尾張瀬戸駅周辺地域の観光交流による賑わいの創出に寄与する。															
1-C-6	A-1と一体的に実施することで、移動しやすく住みやすいまちづくりの促進を図る。															
1-C-7	A-1と一体的に実施することで、中心市街地への都市機能の集約を進め、移動しやすく住みやすいまちづくりの促進を図る。															

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地における都市機能の集約と充実により居住地としての魅力が向上したことで、中心市街地の人口については減少しているものの市内他地区からの転居が増加して下げ止まりが見られた。また、市全体での住みやすさの評価が上昇した。 ・移動しやすさに対する評価については、微増であるが上昇しており（平成28年との比較）、水野駅周辺では迷惑駐輪の減少が見られた。 ・安心・安全な住環境づくりが進むことで市民活動が活発化し、生涯学習講座の参加者数が増加した。また、保育園や公園、病院等の整備により、子育て世代から子育て環境に対する高い安心感が得られた。 			
II 定量的指標の達成状況	指標1（計画区域内の人口数）	最終目標値	28,560人	目標値と実績値に差が出た要因	中心市街地への都市機能の集約と充実が進んだことにより居住地としての魅力が向上し、社会増が増え、人口に下げ止まりが見えている。しかし毎年100人程の自然減があり、特に中心市街地東側は人口減少・高齢化が進んでいる。
		最終実績値	27,462人		
	指標2（市民アンケートにおける移動しやすさの評価）	最終目標値	50.0%	目標値と実績値に差が出た要因	総合計画移行に伴う設問内容の変更により、従前値との比較は難しいが、平成28年度と令和元年度の第6次総合計画に係る市民アンケート調査では道路環境、公共交通の両方で満足度が微増であるが上昇した（平均：平成28年度:36.4%⇒令和元年度:36.9%）。しかし、今後は南北動線をはじめとする道路の改善やコミュニティバスの利便性向上等に取り組んでいく必要がある。
		最終実績値	—		
	指標3（生涯学習講座の参加人数）	最終目標値	526人	目標値と実績値に差が出た要因	中心市街地への都市機能の集約と充実が進み、安心・安全な住環境整備が形成されてきたことにより、市民活動が活発になった。効範公民館と道泉地域交流センターを集計対象とし、高齢化率が比較的低い効範連区にある効範公民館で生涯学習講座の講座数、参加人数が大きく増加した。また、生涯学習講座以外にも子育て支援等の市民活動が増加している。
		最終実績値	803人		
	指標4（市民アンケートにおける住みやすさの評価）	最終目標値	80.0%	目標値と実績値に差が出た要因	公園や子育て・教育環境に対する評価が大きく上昇しており、住みやすさの評価の向上につながったと考えられるが、交通環境や市民活動の場の確保等、今回の計画事業では対処しきれなかった課題もあり、今後多方面からの対策が必要となる。
		最終実績値	77.6%		
	指標5（名鉄水野駅周辺の迷惑駐輪台数）	最終目標値	0台/日	目標値と実績値に差が出た要因	社会資本総合整備計画で実施された検討をもとに水野駅北口駐輪場が整備されたため、駐輪可能台数が増加し、迷惑駐輪が減少したが、駐輪マナーの問題で目標値は達成できなかった。
		最終実績値	17台/日		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		<ul style="list-style-type: none"> ・計画区域内の社会増減は社会増となっており、市内外の「転出超過」では転出超過となっているが、市内からの「転居」では人口が増えており、増加数も大きくなってきている。また、市外への転出についても平成27年度以降回復傾向にある。 ・子育て世代を対象とした「「瀬戸市子ども総合計画」づくりのためのアンケート調査」（平成30年度）で「瀬戸市は、安心して子どもを生み、育てることができる環境にあると思いますか」という設問に対して「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」という回答は72.5%だったのに対し、20歳以上80歳未満の市民を対象とした総合計画の市民アンケート調査では同じ設問に対する「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計は平成20年度→49.0%、平成23年度→52.7%、平成26年度→52.2%だった。実際に子育てを行っている世代からの評価が高いことから、保育園移設や児童遊園、病院等の整備を行った効果が伺える。 ・公立陶生病院新棟の整備により、新棟運用開始前の平成29年度調査から運用開始後の平成30年度調査で「陶生病院を親しい人にすすめようと思う割合」が増加した。また、「待合説部・雰囲気」等の病院内の環境に対する満足度も平成29年度から平成30年度で上昇している。 			
3. 特記事項（今後の方針等）					
<p>○瀬戸まちなか地区における拠点形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトな都市構造への転換を推進する中で、公共施設等総合管理計画や、今後策定する立地適正化計画の方針との整合を図りつつ、瀬戸まちなか地区の拠点形成の方針を明らかにし、居住や都市機能の誘導、交通結節点の改善等を進めていく。 <p>○瀬戸まちなか地区における各地域の特性を踏まえながら、既存ストック等の活用も視野に入れた都市機能の集約と充実を図っていく。</p> <p>○交通環境の改善と拠点間連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通結節点として駅周辺の機能強化を図るとともに、拠点間を結ぶ道路ネットワークやコミュニティバスの運行についても改善に取り組んでいく。 ・瀬戸まちなか地区と郊外の魅力的な拠点とのネットワークを形成し、住んでいる人にとっても観光に訪れる人にとっても魅力的なまちづくりを進めていく。 <p>○市民活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動の活性化や活動場所の確保等に向け、自治会等とも連携して取り組みを行っていく。 					

(参考図面) 社会資本総合整備計画 事後評価

計画の名称	1 都市機能の集約と充実による、安心・安全で住みやすいまちづくり	交付対象	愛知県、瀬戸市
計画の期間	平成26年度 ~ 平成30年度 (5年間)		

